

環境対策活動 EarthCare



3年ぶりの開催となったRISING SUN ROCK FESTIVAL 2022 in EZOを始め、6つのイベントで「ごみの分別ナビゲート」などの環境対策活動を実施しました。また、小学校や高校で活動紹介を行いました。ごみ問題を始めSDGsへの興味、関心を共有し、共に自分たちができることを考えていきます。(ゆうか)

サイクルシェアサービス ポロクル/モビリティについて考える会



Sapporo Love Bicycle Daysをはじめとした自転車のルール・マナー啓発活動への参加、ポロクルを活用したSDGs教育旅行のプラン検討を行いました。また、廃棄処分自転車数ゼロを目的とした「ゼロチャリ」プロジェクトを発足し、自転車の修理・メンテナンス教室の開催や動画の作成を行いました。(鮎)

都市の若者と森林をつなぐ プロジェクト「NINOMIYA」



新生産拠点での火災事故は関係者の皆様をはじめとして多くの方々に多大なご迷惑、ご心配をおかけしました。新生産活動は見直しとなりましたが、クラブメッドトマムでの薪割り体験提供や栗山町との薪事業の連携等、薪割りノウハウを元に外に展開する活動が中心となり、薪割り体験のコースの高さを改めて強く感じました。(てつ)

北海道の自然の中で子どもたちに生きる力を 石狩体験キッズ「チボロ」



活動拠点の見直しに伴い、今後の活動についてチームメンバーで検討を行っています。これまで石狩で行ってきた自然体験活動のプログラムやアイデアの棚卸しを行い、これからこのプロジェクトチームは何ができるか、何をやっていくのかを改めて次年度までにメンバーと議論を行っていきます。(てつ)

関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ



地域でのイベントへの作りこみからの参加や、自然保護活動、子どもの体験活動など15の地域でオンラインを含め幅広い活動を実施しました。初開催となったオンライン関係人口フェス「リレーションズフェス」には14地域とのべ177名が参加。地域間の繋がりも感じられる機会となり来年度の実施が期待されています。(くめちゃん)

石狩市浜益区で関係人口創出 浜益ベース



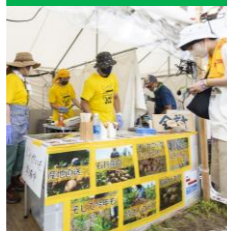
石狩市浜益区をフィールドに活動する浜益ベース。今年度は、昨年度作成した集落の教科書の完成報告会やきむら果樹園でのお手伝いプログラムを行いました。活動拠点である「はまますベース」でも部屋に置く看板づくりや使い方のマニュアル作成を行い、活動に取り組みやすい環境づくりも実施しました。(ごーすけ)

「皮なめし」を切り口に「エゾシカ」問題に触れる シカ革なめし部



自分たちで皮をなめす実証実験を行い、レザー制作がいかに難しいかを実感しました。シカ皮が廃棄される背景に、皮なめしの下処理として余分な肉や脂肪を削ぐ作業がボトルネックであることがわかり、皮革工場と連携したシカ皮活用を模索し始めています。また、レザークラフト体験会から関心者を巻き込む活動を実施しました。(しん)

見える循環 RSRオーガニックファーム



今年もはるきちオーガニックファームの協力のもと、オーガニックじゃがいもの栽培を行いました。3年ぶりの開催となったRISING SUN ROCK FESTIVALでは、オーガニックじゃがいもの配布は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったものの、2つの品種のじゃがバターの販売を行いました。(てる)

代表の小言

高校生に言われた
キツイ一言

今から20年くらい前に、大学の授業で呼んでいただき、環境活動に関して話をする機会がありました。その授業を担当していた方はだいぶ高齢で、環境問題に長く取り組んできていた方でした。授業の冒頭、深々と学生に向けて頭を下げ、「まず最初に、私はみなさんにこのような地球環境を引き継がせたいという事柄についてお詫びをしなければならぬ」と言ってから、授業が始まりました。20代だった私には、あまりに衝撃的で、いまだにその光景が忘れられません。

先日、環境問題について高校生と雑談していると「どうして、大人の人は若者ばかりに実践させて、自分たちはやらぬのか」というキツイ一言をもらいました。私を含めて、中高年層が問題を起こしている側面もあるわけで、偉そうにできるはずがないんですよね。みなさん！世代とか関係なく、一緒に取り組みましょう！

草野 竹史



浜 益 ベ ー ス

集落の教科書を作る

今号の写真
石狩市役所浜益支所でのインタビューの様子。

浜益ベース 集落の教科書をつくる

石狩市浜益区に関わる関係人口を増やすことを目的に、2019年度から活動を開始した「浜益ベース」プロジェクト。その活動の中で、「集落の教科書」を作成することになりました。集落の教科書を作成することになった経緯や過程に迫ります。

集落の教科書とは

テダスとの出会い

「集落の教科書」は、京都府南丹市で地域づくりを支える団体「NPO法人テダス」から生まれました。「良いことも、そうでないことも、ちゃんと伝えたい」をコンセプトにした、移住のための地域別ガイドです。「浜益版集落の教科書」は北海道で初めての集落の教科書です。

「浜益ベース」プロジェクトでは、日々浜益について深く知り、興味を持ち、地域づくりに関わる関係人口を増やすことを目標に活動しています。集落の教科書は、移住定住者向けに地域とのミスマッチを予防するために作られたものですが、浜益では、地域と地域の外の人を結びつける集落の教科書を「住んではないけれど、その地域に通う地域のファンである」関係人口”を対象に項目や見せ方をアレンジして作成できないかと2020年冬から検討をスタートさせました。

2021年には、集落の教科書を生み出したNPO法人テダスの田畑さんから集落の教科書とは何か、制作方法などをお聞きするワークショップを開催し、4月から実際に制作を開始しました。

関係人口とは？

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のことを言います。人口減少・高齢化により、地方は地域づくりの担い手不足という課題がありますが、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

今後、日本の人口は自然減が続き、2040年には1.1億人程度になると推測されています。この限られた人材を奪い合う移住・定住を促進していくのではなく、また、移住・定住という心理的に高いハードルで解決するのではなく、その地域づくりに関わる人数を増やす「関係人口」で様々な課題を解決していく必要があると言われてます。

ezorockでは「地域の外から地域づくりに関わる人」「地域のファン」と定義して、179リレーションズと浜益ベースのふたつのプロジェクトで関係人口に関わっています。

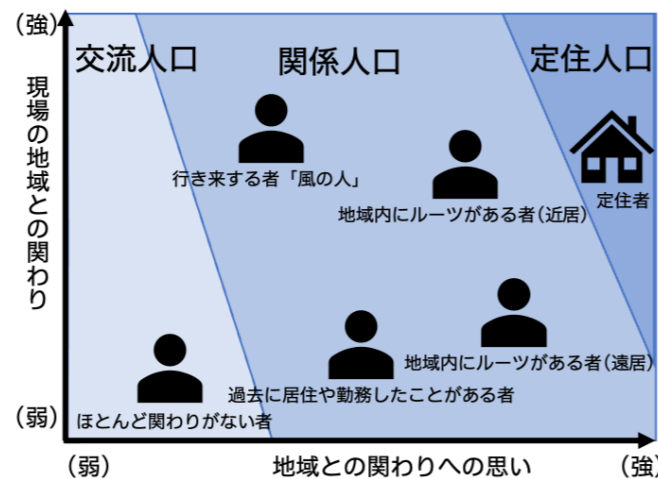
浜益と関係人口

浜益は札幌から車で約1時間半かかる石狩市の北端に位置します。日本海に面し、三方を山で囲まれ、かつての陸路は厳しい峠道を越えるしかない「陸の孤島」と呼ばれた地域です。現在は、高齢化が進み、コミュニティや仕事の維持が難しくなりつつあります。

浜益の方々にはよそから来た人のことを「よそ者」ではなく、「旅の人」と呼びます。浜益に観光に来た人、仕事で来た人、通過点として通り過ぎる人全てが「旅の人」です。浜益は昔から旅の人に優しい地域です。

ezorockと浜益の初めての接点は2009年。都市部の若者が農業のお手伝いをしながら地域に関わる農水省のプログラム「田舎で働き隊！」でした。その後、2017年から子どもの自然体験プログラムを実施の機会を創出、2019年には「はまますベース」と名付けた宿泊や滞在が可能な活動拠点の施設、農業や物産展のお手伝いや地域行事への参加、ワーケーション事業の推進などさまざまな活動を実施してきました。

浜益の旅の人に対して優しい風土にezorockの青年層を掛け合わせる(=関係人口を推進する)ことで、浜益の課題となっているコミュニティや仕事の維持に寄与しています。



集落の教科書を作成して

人と人をつなぐ集落の教科書作り

集落の教科書は調査シートづくりから開始しました。他の地域で作成している集落の教科書を参考に、浜益版でのターゲットや掲載したい内容をリストアップ。その結果、浜益の「人間関係」「自然」「生活環境」「お店・食」「子ども・教育」「その他」に分類を行い、聞き取り項目を精査していきました。

2021年8月からは浜益の方々への聞き取り調査がスタートしました。札幌近郊の若者が実際に浜益に何度も足を運びインタビューを行いました。インタビューを受けた方が別の方を紹介してくれ、さらにまた別の方へと繰り返す、のべ50人以上の方にインタビューを行いました。浜益に住んでいる人にしかわからない情報や、住んでいるからこそ感じる思いや気持ちを大切にしながらお話をお聞きしました。

地域側が知ってほしい情報だけでも、地域の外から訪れる人が知りたい情報だけでなく、その両方を大切に、制作過程の気づきや発見も重要視するこの集落の教科書。主に札幌に住む制作チームメンバー6名と浜益区地域おこし協力隊が何度も何度も話し合いを重ね、浜益に通いながら情報を集めてきました。

制作開始から約1年後の2022年春に浜益版集落の教科書 Ver.1が完成。集落の教科書は一度作成して終わりではなく、その後も改訂していくことができます。これからも少しずつ最新の情報に更新をしていく予定です。

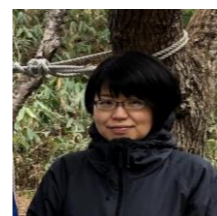
Volunteer voice

私が浜益にはじめて行ったのが集落の教科書のインタビューでした。直接行く前に他のメンバーから浜益のいい所や魅力などを聞いていましたが、インタビューで浜益の方から生の声を聞いて一気に浜益のファンになりました。みんなでインタビューした内容をまとめていると浜益にとっても詳しくなった気がしました。今後は、この浜益の集落の教科書を活用して浜益の関係人口が増えるように活動していきたいです。



中居 豪佑 (ごーすけ)

Interview



石狩市浜益支所 小貫 陽子 さん

浜益版を作りたいとお話をいただいた時から、ずっとわくわく心待ちにしていた「集落の教科書」。浜益区内外を問わず伝えたい、地域の魅力やあれこれを、ezorockの皆さんが丁寧に拾い集め、1冊にまとめてくださいました。

インタビューが始まると、インタビューされた人がその場で次の人を紹介アポも取る、という形で人の輪が広がっていくのを目の当たりにし、改めて、「ezorock」の名前が浜益で確実に浸透していること、そしてこの地域のポテンシャルの高さを感じました。聞き手も話し手も長時間大変なはずなのに、どちらもとっても楽しそう。作る段階からすでに都会の若者と地方の住人が繋がり、交流し、関係人口が生まれていったと思います。

浜益はディープな魅力に満ちています。そして、インタビューを受けてもいいとってくださる方(むしろ待っている方)はまだいるはずです。初版が出たばかりで気が早いと言われそうですが、改訂に向けて、また浜益に来て、新たな発見をしていただけたら嬉しいです。関わってくれたメンバーの皆さん、ありがとうございました。



浜益ベースのこれから

関係人口の「入口」として

浜益ベースでは、樹齢1500年のイチイの巨木を中心とした自然体験、果樹園のお手伝い、SNSや壁新聞による情報発信、地域イベントへの参加など地域の際を見つけて活動を行ってきました。今後も主にりんごやさくらんぼを生産する果樹園の作業お手伝いなどを通して、浜益に関わりたいと思っています。

活動参加者から地域おこし協力隊として浜益に移住した”ゆうた”の存在や、滞在型活動拠点「はまますベース」、様々な活動から少しずつ地域の方との接点も増えてきています。地域に関わる時には地域の外から訪れる私たちのやりたいことややってみたいことだけを伝えるのではなく、地域で求められていることや地域のみなさんのやってみたいことに混ざって活動が生まれていくような関係が必要です。浜益ベースが長く浜益に関わりながら、様々な関わり方を生み出していきます。

ぜひみなさんも一度訪れてみてください。

活動拠点「はまますベース」

2019年春。石狩市の職員住宅だった一軒家を、滞在型の活動拠点として整備しようという動きが始まりました。それまでは、日帰りで浜益へ通うか、民宿やコミュニティセンターでの宿泊が必要でした。継続的かつ滞在型の活動も実施できるようにと、まちの方からお声がけいただきました。

約40年前に建てられた「はまますベース」。「もっと色々な人に来てもらいたい」「ワーケーションなどもっと多様な関わり方ができる拠点にしたい」。そんな想いから改築工事を行いました。キッチンとトイレの取り換え、タイル張りだったお風呂場をシャワー個室2つに。そして、複数人でも宿泊できるよう洗面台を2つ新設するなど水回りを中心に改築しました。工事後にはみんなで壁に漆喰を塗りました。今後も、滞在型活動拠点として宿泊・研修・休憩場所として多くの方に活用していただけるよう整備を進めていきます。

